（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	玉城　史朗	所　属	工学部情報工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	情報工学科基礎科目である情報数学Ⅰ、Ⅱの講義に全力を尽くす。そして、講義についてこれない学生に対しては別途補講を行い、学生が理解できるまで丁寧の指導する。大学院の講義においては、数学、力学、制御理論の重要な分野を講義形式で行う。また、キャリア実践は学生とともに成長するべく努力する。１年次指導教員の責務を果たす。	0.30	情報数学I, IIの講義は非常に分かりやすいとのアンケート調査結果が出た。しかし、教科書がわかりづらいとの意見が多かったので、その点は改善を有する必要を感じている。来年度は、講義プリントと教科書を補完する形で講義を行う。大学院の講義では、学生が力学に不慣れであるということを痛感したので、その点の改善を行いたい。
研究	0.25	学術論文4本、国際会議2本を目標とする。特に今年度は以下の分野を並行して進める。1）風力発電システムにおいては、風車の羽根失速制御機能のモデリングと実験、そして、実用化を目指す。山羊のトレーサビィリティの研究は、最終年度に向け、特許、論文の完成を目指す。	0.30	学術論文4本、国際会議3本であり目標を達成した。特に国際会議では最優秀論文賞を受賞した。風力発電システムは、その実用化のめどがつき、周辺特許を出願準備中である。また、山羊のトレーサビリティシステムの特許出願中である。
社会貢献	0.15	現在行っている風力発電システムの実用化、そして、農業用水供給システムを構築する。さらには、山羊のトレーサビリティシステムの実用化を図り、沖縄発の技術として公開する。	0.15	現在行っている風力発電システムの実用化、そして、農業用水供給システムを構築が完成した。また、山羊のトレーサビリティシステムの実用化を図り、沖縄発の技術として公開している。そして、共同研究が2件成立した。
管理運営	0.15	工学部後援会事務局長として、県内企業と工学部のつながりを密にするとともに、産学連携の推進に積極的に関与する。	0.05	工学部後援会事務局長として、県内企業と工学部のつながりを密にするとともに、産学連携の推進に積極的に関与した。
進路指導	0.15	就職担当教員の責務とともに、本学科学生の人間力を高めるために、以下の科目のコーディネートを十分に行う。1）キャリア実践。2）産業社会学原論。また、就職担当として、修士、学士の進路指導に力を注ぐとともに、学生の就職意識を高め、そして、希望する進路を選択可能とするようにサポートする。	0.10	就職担当教員の責務とともに、本学科学生の人間力を高めるために、以下の科目のコーディネートを行った。1）キャリア実践。2）産業社会学原論。その成果として、東京中小企業同友会からのインターンシップ受け入れに対し6名の学生を派遣した。
その他	0.05	1年次指導教員として、イベントや行事等に積極的に参加する。	0.10	１年次指導教員として、学生の指導を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	アシャリフ・モハマッド・レザー	所　属	エ・情報学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	学部担当科目：DSP,　Simulation、先端情報工学概論（1/4）、Frontier Engineering (URSP短期留学生のために担当教員英語で行う), Technical English Seminar (技術英語ゼミ)。大学院担当科目：信号処理論、Technical Reading & Writing、Signal Processing Theory (for special course in English),Overview of Engineering Program (for special course in English)。博士（後期課程担当科目：音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)（given in English for Japanese or Foreign students)。	0.40	DSP:前期行いました。Simulation:後期行いました。先端情報工学概論後期行いました。URSEP(Frontier Engineering)後期行いました。大学院担当科目：信号処理論前期行いました。TRW前期行いました。Overview of Special Program for Engineering:講義担当後期行いました。Signal Processing Theory後期行いました。博士（後期課程担当科目：音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)開講なし。Technical English Presentation (技術英語プレゼン):講義担当後期行いました、９名英語で卒業論文発表しました。
研究	0.00	Variuos kind of researches mostly related to Speech & Image Digital Signal Processing are under consideration such as: MIMO-OFDM by ICA, Image Enhancement, DeNoising, Demosaicking, Image Enlargement, Corner Detection by Curvature Scale Space (CSS), Echo Canceling by ICA, Human Detection in Image by Color and Morphology Fusion, MultiPath Estimation, Virtual Sound Souce Localization, Acoustic Echo Canceling, Short message System. Acoustic OFDM, Single Sensor Harmonic Interferece Canceling, Music Snthesizer, Image Seam Carving. In my lab. last year, we published many papers and attending many conferences (10 papers & 14 Conferences, Total 24). In coming year we will also consider OFDM, Echo Canceling by ICA, Human Detection in Image, Image WaterMarking etc. I plan this year to attend many conferences (ITC-CSCC 2012, GLOBECOM 2012, SIP 2012 etc.) and publish many papers. Also, This year 2012 in November the Signal Processing Symposium (SIP 27) will be held in Okinawa (Ishigakijima) and I'm chair of the event.	0.20	左題名の研究について昨年論文Papers：12件、国際学会5件＆国内合10件掲載と発表しました。２０１２年5月Chungbuk National University in Korea 研究交流、Colaboration of Prof. Heung Gyoon Ryu.も行いました。他にテヘラン大学と大阪府立大学共同研究進み、何件論文を書きました。
社会貢献	0.00	As a foreigner professor, I would like to involve in more international activities in University of the Ryukyus. Collaboration of various researches based on the agreemnt between University of the Ryukyus and University of Tehran (Faculty of Engineering) and to sustain it for 14 years now. In Feburary 2011, and September 2011, I invited Prof. Nili and Prof. Rajaei of Tehran University to give lectures in Robotics and Signal Processing & Fault-Tolerant Control and its application in energy conversion and networked control systems through International budget. I plan to expand the agreement with other Faculties and Universities. This year I'll plan to invite another two professors from Tehran University. Also in year 2010, we settle an agreement with Chungbuk National University in Korea by colaboration of Prof. Heung Gyoon Ryu. We are continuing research collaboration in Acoustic OFDM etc. Also, I plan to visit Prof. Ryu of CBNU, Korea in May 2012 to attend several seminars. Also in April 2011, I made an Internet Seminar (NGO) with Jujuy University in Argentina collabolating my Research student (now Ph.D.) and one trainee member of JICA.	0.10	テヘラン大学からDr. Araabi、２０１２年12月15日～23日国際交流進行で琉球大学来ました。Dr. Araabi "Evolving Fuzzy Systems and their Application in Online Prediction and Modeling" lecture行い、色々な共同研究との打ち合わ行いました。 http://www.jim.uryukyu.ac.jp/kougaku/kougakubunews/24/24.12.28Revised.pdf 大阪府立大学から山下先生と共同研究おこなう。 Chungbuk National University in Korea by colaboration of Prof. Heung Gyoon Ryu. We are continuing research collaboration in Digital Communication etc.数件論文発表行ました、２０１２年5月Chungbuk National University in Korea 交流、colaboration of Prof. Heung Gyoon Ryu.も行いました、更に２０１２年１０月CBNU大学ゼミに参加しました。又は、Prof. Heung Gyoon Ryu琉球大学国際交流予算で講演会と共同研究２月４～１３日行いました1-Power Model of Wireless Transceiver and System Capacity 2-Beamforming Technology and Digital Retrodirective Array Antenna。 信号処理symposium　（SIP 27）今年１１月沖縄石垣ANA行いました。アシャリフは委員長勤めました。SIP 27ではNov. 28-30, 2012 (113 papers, 21 oral sessions, 1 poster session, 154 attendees).
管理運営	0.00	昨年は総合知能専攻主任色々活動やりました、今年は情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員（Member of Avisory of Forein Students）、特別コース運営委員会委員などの委員会活動に積極的に参加する。その他、教育員、研究推進委員会委員もやっております。Also, This year 2012 in November the Signal Processing Symposium (SIP 27) will be held in Okinawa (Ishigakijima) and I'm chair of the event.	0.20	情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員、特別コース運営委員会委員などの委員会活動に積極的に参加しました。その他、研究推進委員会委員もやっております。信号処理symposium　（SIP 27）今年１１月沖縄石垣ANA行いました。アシャリフは委員長勤めました。SIP 27ではNov. 28-30, 2012 (113 papers, 21 oral sessions, 1 poster session, 154 attendees).
進路指導	0.00	卒業生4人、修士4人、博士2人、研究員（PD)1人	0.10	卒業生4人、修士４人９月一人（Asad）修了し、博士課程（環境）進学、博士２人、研究員（PD)1人。今年度は卒業生4人卒業し、修士一人（浦田君）３月修了見込みです。研究生は（Carlosさん）２０１２年3月修了し、彼は２０１２年４月から博士課程入学し、博士課程は二人（Carlos　さんと横田さん研究員（PD）１人（Khosravyさん）。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙1）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	和田　知久	所　属	工学部　情報工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1）担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2）設計関連講義で、実習を取り入れた実践的内容を実施する。 3）道徳・倫理関連の講義をさらに充実したものにする。 4）教員免許講習他、通常外の講義・教育を積極的に担当する。	0.30	1) 講義に関しては予定どおりに実施完了予定。 2) ディジタルシステム設計、およびVLSI設計の講義で、総情センターでの実習PCを用いて、実際にFPGAでの動作デモを行う講義を実施できた。 3) 情報倫理の非常勤講師所属の公益財団法人モラロジー研究所より、研修の上、和田も社会教育講師として任命され中身の濃い講義を実施できた。 4) 教員免許講習はお世話する日程を拡張し、琉大だけでなく宮古・石垣講座も実施、出前講座3件実施した。
研究	0.20	1）修士学生の国際学会発表を複数名実現する。 2）交流協定を活用し国際研究を活性化し、成果を出す。	0.20	1) M1学生2名をベトナムでの国際学会で発表（8月）、M2留学生を韓国の国際学会にて発表（1月）させた。 2) ９－１０月に、学生2名を2か月のベトナムハノイ工科大学に派遣し研修を実施（工学部資金と理学部資金）、2月に韓国よりRYU先生を招待しセミナーを本学で予定。
社会貢献	0.20	1）兼業としての会社関連のサポートを怠りなく実施する。 2）学外講演などを実施する。	0.15	1) マグナデザインネット社の新製品（LTE電波解析装置）の電波分離処理等のアルゴリズム指導、および次世代デジタル放送受信機開発に関する実験や方式開発の援助を実施した。 2) 北陸先端科学技術大学院大学のベンチャー関連講義1件、高校への出前講義3件、社会人向け道徳講義1件を実施した。
管理運営	0.20	1））IT戦略副学長として、ITサービス、ITインフラ、ITを用いた経営の3点で積極的に活動する。	0.15	1) ここ数年の懸案であった情報セキュリティ関連の細則案を委員会で作成し、本年度中に施行できるめどを得た。また、文書管理規則の制定も行い、事務部門より徐々の実施される予定。ITを用いた経営という観点では、ニーズが弱く、検討が後回しになっている。
進路指導	0.10	1）研究室や周辺学生達の社会性をはぐくみながらの進路指導を実施	0.20	1) 今年度は例年とことなり4年次の卒研生6名とM2の修了生3名と多く、また全員に異なる課題を与えてしまったので、手間を取り時間を取られたが、一応6名とも卒論・修論が終了できる予定で進んでいる。社会性を育むところがあまりできなかったのが反省である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	名嘉村盛和		所　属	工学部情報工学科	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.30	専門教育はJABEE基準の講義を行う．三，四年生対象のアルゴリズム論，並列分散システムでは，プログラミング能力向上に資する内容にする．卒業研究，セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるよう細かい指導を行う．エンジニアリングデザイン教育プロジェクトを推進し，カリキュラムと教材を開発する．		0.30	専門教育においてJABEE基準の講義（教育内容および達成度評価）を行った。並列分散処理およびアルゴリズム論においては特にプログラミング能力の向上に重点をおくことができた。卒業研究では個別指導の回数を増やし従来より細かい指導を行うことができた。エンジニアリングデザイン教育プロジェクトでは、当初計画以上の内容を実施できた。	
研究	0.35	最適化計算およびその並列処理に関する研究を引き続き推進する．特に科学研究費補助金の研究課題に力をいれる．研究成果はできるだけ論文誌，国際会議，国内研究会で報告する． 電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員として当該分野の研究を推進する．IEICE Trans. on Fundamentalsの編集委員として質の高い論文誌の編集につとめる．		0.30	科学研究費補助金の最終年度である最適化計算およびその並列処理に関する研究を推進できた。国際会議論文４編が採択になり、ジャーナルに2編投稿した（査読中）。また、電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員としてジャーナル特集号のゲストエディターを担当するとともに、IEICE Trans. on Fundamentalsの編集委員として役割を果たした。	
社会貢献	0.10	沖縄情報産業協会外部理事として沖縄県情報通信産業の発展に向けて努力する．人材育成にかかる沖縄県，民間の取り組みに積極的に参加する．		0.10	沖縄情報産業協会理事会、沖縄県情報通信産業関連事業に関わる委員会等において、沖縄県内の情報通信産業の諸課題に対して意見を述べた。ETロボコンを通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。	
管理運営	0.20	エンジニアリング・デザイン教育プロジェクト推進責任者としてリーダーシップを発揮しプロジェクトの成果を高める．学科教務委員長として，学科教務関連業務をとりまとめる．学部教育委員として教育関係の課題に取り組む．全学ハラスメント防止対策委員会委員として良好な職場環境の維持に努める．		0.25	エンジニアリング・デザイン教育プロジェクト推進責任者としてプロジェクトの進捗を管理し、当初達成目標を達成した。学科教務委員長として学科教育業務をとりまとめた。学部教育委員として教育関係の課題に取り組んだ。URGCC教育プログラムWG委員として役割を果たした。全学ハラスメント防止対策委員会委員として学内の課題解決のための委員会に積極的に参加した。	
進路指導	0.05	研究室の学部生，大学院生の進路指導を丁寧に行う．年次指導教員として，三年次の進路指導を行う．学科相談員として学生が抱える諸問題が改善するように努める．		0.05	研究室の学部生は全員進学となった。卒業生の転職のサポートを行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	河野真治	所　属	工学部情報工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	[実験] Game 班では Web GL / Android / iPhoneでのゲーム作成を行う。[授業] Programming 3 では、小さいプロダクツの生成に集中する。2ヵ月単位のプロジェクトを複数行い、細かく管理する。課題の評価を即時で行うスクリプトを作成し実際に用いてみる。	0.30	週間単位のプロジェクトにより、多数のプロダクトを作成することができた。Seek の渋川氏の協力により、MITゲームラボの所長の前での発表、及び、二回の Game JAM への参加ができた。課題の評価を即時で行うスクリプトは効果的であった。
研究	0.50	[分散 Data Segement] Federated Linda を発展させた、Alice の実装とAPIの分析を行う。[Game] Cerium Rendering Engine のMany core 版GPU版の作成と評価を行う。[Continuation based C] Continuation based C の言語の完成度を上げる。[並列 Data Segment] Cerium/Alice の実装をData Segment と組み合わせたものの設計とプロトタイプの作成を行う。[分散CMS] Tree structured Database の Persistencyの設計を行う。[Tree VNC] 実際の授業で用いる画面共有システムTree VNCの実装を進める。	0.50	[分散 Data Segement] Alice の例題を作成し、実験データを得た。[Game] Cerium Rendering Engine のMany core 版GPU版の作成と評価ができた。[Continuation based C] Cに再帰型を実装した。[並列 Data Segment] Paging 及び filp などの設計と実装を行った。[分散CMS] Tree structured Database の プロトタイプ作成を行った。[Tree VNC] 実際の授業で用いる画面共有システムTree VNCの実装が少し進んだ。研究発表では少し物足りなさがあった。
社会貢献	0.05	[Seminar] 勉強会をインターネット上で公開する形で開く。[Java Kuche] 社会人、学生を対象とした、Java、ソフトウェアフレームワークの勉強会の 団体であるJava Kucheのサポートを行う。[Facebook] Facebook の沖縄ユーザグループへ積極的に参加する。[学会] 沖縄の研究会の開催に協力する [共同研究] 東京の企業の共同研究を進める。	0.05	Java Kuche の会合に二回参加した。Graph DB に関する発表を行った。OS研究会のlocal arragement を行った。株式会社Symphonies との共同研究(無料)を行った。
管理運営	0.10	[サーバ管理] Blade 上での仮想マシンの管理をKVMを用いるものを提案し、実装する。OSの授業で実際に 効果的に使えるものを作成する。	0.10	ie-virsh を作成し、kvm をOSの授業及び研究で使えるようにした。
進路指導	0.05	修士の学生に、スケジューリングを意識した就活を提案する。3年次の学生にプログラミング3,4を通して自分でアピールできる プロジェクトを達成させる。多様な就職先を提案する。	0.05	OB など連携し、東京での就活を応援した。実際のプロジェクトを通して、就活への具体的なアピールできるものを提供できた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	長山　格	所　属	情報工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	専門科目講義における学生の実践力向上を図る。特に、データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画と最適化では、数値計算パッケージを用いた大規模計算課題を実施し学生の応用力を養う。また、共通教育科目（情報科学演習）についても、新入生にわかりやすく、かつ実践的実習を重視した授業を行う.。	0.30	データベース講義では目標通りフリーDBシステムを使用した実践力重視の講義を行った。また新たにDBのパフォーマンス向上の実現方法について詳細に解説し学生の応用力強化を図った。数理計画と最適化では、数値計算パッケージを活用した大規模最適化方法につて解説した。特に、専門科目授業では安易な成績評価をせず、厳密な成績評価を行った。共通教育では、情報科学演習において実習中心の手稲にな授業と情報リテラシーの解説を行い受講生に好評であった。
研究	0.30	研究成果の査読論文発表を1本以上行う。また、口頭発表を数件以上行う。情報技術ハンドブック編集委員・執筆委員として編集作業・執筆作業を行うとともに、出版社からの発行準備を進める。	0.30	目標通り、研究成果の査読論文を発表した。また、全国大会への発表を5件行い、うち1件は優秀発表として表彰を受けた。進化技術ハンドブックの編集委員・執筆委員を担当して最終巻を上梓するとともに、近代科学社からシリーズ合計3巻が出版された。
社会貢献	0.20	各種学会の実施と運営を行う。情報処理学会等の委員を務め、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、国際会議の運営委員を担当する。また、社会人を対象とする公開授業を提供する。さらに、高校生を対象とする公開授業の提供を行う。	0.20	情報処理学会の九州支部評議員、通信学会委員などを担当し、各種委員会や学会運営に参画した。地域貢献では、社会人を対象とする公開授業（音声画像処理）を提供した。また、高校生を対象とする公開授業（数理計画と最適化）も提供した。
管理運営	0.10	大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学科委員、学生相談員などの委員会活動に積極的に参加する。	0.10	教授会、学科会議、教務委員会、学部教育委員会など各種会議委員を担当・参加するとともに、大学入試関係ではセンター試験入試の実施を担当した。さらに2次試験では、例年に引き続き数学委員を担当する。また、工学部のTOEFL実施委員を担当し、TOEFL-ITPの実施・運営を担当した。
進路指導	0.10	学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。	0.10	4年生や修士の担当学生の進路指導や生活相談を積極的に実施した。4年生の奨学金や各種学生援助金の受給をサポートするなど学生の補導厚生に努めた。また、理工系の修士進学者数が全国的に増加していることを、メリット・デメリットを交えて多面的に説明し、修士への進学者の増加を図った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岡崎　威生	所　属	工学部　情報工学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	WebClass活用による学生個別の学習状況提供と、例題や演習を多用して講義方法を改善する。 2年次に対する修学姿勢と創発的活動の向上に取り組む。 研究室内ディスカッションで英語を多用し留学生とのコミュニケーションに配慮する。	0.30	Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。 2年次に対して前期毎週Home Roomを実施し、計画的な修学に必要な情報提供と指導を行った。 ゼミでのレジメやスライドに英文を含めるよう指導し、博士課程学生は毎回英文資料を作成した。
研究	0.30	大学院学生と共に研究論文を3本以上投稿し採択を目指す。 各種外部資金の獲得に努め，関連企業との共同研究を進める。	0.30	研究論文の6本が査読付き論文誌に採択され、2本が査読付き国際学会に採択された。 企業との共同研究の中で、継続テーマに加えて新たなテーマを2件提案し、研究交流を活発化させてきた。
社会貢献	0.20	高大連携事業に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。 人材育成事業に参加し、高度職業人養成に貢献する。 学生とともにボランティア活動に取り組む。	0.20	沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践を行なった。 沖縄県事業のバイオインフォマティクス人材育成講座において、琉球大学のマネージメントおよび講師を担当した。 海浜清掃活動を実施した。
管理運営	0.10	IT戦略室委員、工学部社会連携委員、学科入試委員と計算機委員などの委員会活動に積極的に参加し、大学運営に貢献する。 教員養成運営委員として教員資質の向上に貢献する。 オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。	0.15	IT戦略室委員として、学内IT教育案と監査実施案を策定した。 大学案内作成WGのメンバーとして、大学案内企画策定に貢献した。 AO会議企画広報部門委員として、大学入学者アンケートの結果分析を行った。 工学部社会連携委員として工学部後援会事務局を担当し、後援会会員への情報提供や就職説明会運営を行った。 教員養成運営委員として、教職実践演習カリキュラムの設計や工学部教員免許取得の手引きを作成した。 学科オンライン授業評価の実施を指導し、回答しやすいシステムへ改善を行った。
進路指導	0.05	研究室学生に対し個別面談を実施し、企業動向や就職活動の心得等を伝え、就職意識の啓蒙に努める。 2年次学生に対し、情報処理系や語学系の資格取得を促す。	0.05	研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望や家庭環境を把握し、修学指導を行なった。 2年次に対して個人面談を通して就学状況の把握と指導を行ない、Home Roomでは社会人や先輩の講話を実施しキャリア教育を実践した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	吉田 たけお	所　属	工学部 情報工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	学部担当科目（情報工学実験Ⅰ～Ⅳ）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。	0.35	授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。
研究	0.30	大学院博士前期課程の学生と共に研究会での発表および研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	0.30	電子情報通信学会の合同講演会において、学会発表を行った。論文誌への投稿論文に関しては、現時点では研究テーマ自体の再検討等を行っており、未着手となっている。早急に投稿できるように努める。また、外部資金に関しては、残念ながら、今年度は獲得できなかった。
社会貢献	0.10	沖縄高専の非常勤講師として、「組込みシステム」を担当する。社会人を対象としたVLSI設計関連の技術セミナーの講師を務める。また、LSIデザインコンテストの実行委員を務める。	0.10	社会人を対象とした技術セミナーに関しては、実施母体の都合により今年度の実施が見送られたため、担当しなかった。またLSIデザインコンテストについては、現時点で未実施であるが、2013/03/29に実施予定である。なお、非常勤講師については、目標通りに実施した。
管理運営	0.15	学部交通指導委員(委員長)、学科入試委員、学科オープンキャンパス委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。	0.15	全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。
進路指導	0.10	博士前期課程２年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導に努める。研究室に所属する学生に対する進路指導に努める。	0.10	博士前期課程２年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導を行った。また、研究室に所属する学生に対しても進路指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮里　智樹	所　属	工学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	学科担当科目（情報工学実験1、2、3、4）を担当し、エンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行う。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。	0.20	学科担当科目（情報工学実験1、2、3、4）を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出せた。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。
研究	0.25	大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、連携企業との共同研究を継続し、実社会に応用出来る技術の研究開発に努める。	0.20	大学院博士過程の学生と共に研究論文を提出すべく現在執筆中であり、本年度内には提出予定である。連携企業との共同研究を継続し、実社会に応用出来る技術の研究開発に努めたが、具体的な外部資金獲得には至らなかった。
社会貢献	0.20	琉球大学における実践的高度IT人材育成事業の定着を目指して、産業技術大学院大学との協定事業を推進する。APITT事業の継続に協力する。NPO法人OPSIの理事として、オープンソースの普及に努める。	0.25	産業技術大学院大学との協定事業に関しては、全国連携型修士PBLへの参加が決まったが、まだ具体的な活動は行っていないが、活動自体は次年度の予定である。目標設定時には無かった活動として、社団法人IIOTの学術会員に任命され、技術委員長としてIIOTの活動に貢献した。
管理運営	0.30	年次指導教員や、入試委員、計算機実験委員、安全衛生改善委員、安全衛生委員などの委員会活動に積極的に参加する。	0.30	年次指導教員として、インターンシップの世話人、仮配属関連の業務等を担当した。入試委員として、3年次編入試験を担当した。安全衛生改善委員、安全衛生委員として活動に積極的に参加した。
進路指導	0.05	2名の卒業研究配属者に対して、就職希望者に対しては早期の就職活動を促し、進学希望者に対しては、進学についてのサポートを行い、円滑に進路決定が行える様に努める。修士4名の研究計画の立案をサポートしつつ、修士2年次に関しては、就職活動の精神的サポートに注意していきたい。	0.05	2名の卒業研究配属学生に対して、1名は修士課程への進学を、もう1名は株式会社パワーエッグへの就職活動を支援した。修士については、1名は途中から不登校になり、現在連絡が取れない状態である。また、1名は個人的な事情により留年することになった。修士1年の2名については、概ね順調に研究活動を指導する事ができた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	長田　智和	所　属	工学部情報工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	情報工学実験1-2において、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させる。同じく3-4においては、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。担当2年目になる講義科目「情報ネットワークII」では、先修科目(情報ネットワークI)を知識基礎として、情報システム・情報ネットワークへの応用技術について講義する。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組ませる。なお、今年度より博士前期課程の指導資格を取得したので、特に大学院生の指導にも力を入れる。	0.30	情報工学実験Ⅰ＆Ⅱにおいて、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させた。同じくⅢ&Ⅳにおいては、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させた。助教の中で唯一講義を担当している「情報ネットワークⅡ」では、あえて教科書は用いず、私のシステム開発・構築運用経験を題材として、情報ネットワークⅠとの繋がりを意識しながら講義を行った。講義開始時の学生の知識が少なく、要所要所で復習を多分に入れながらであったが、自己評価で80点の内容だったと思う。次年度は更に講義内容を改善したい。研究ゼミでは、民間企業との共同研究に大学院生を参画させるなど情報システムおよび情報ネットワーク構築運用技術を実践的に指導した。また、初めて主査として修士学生を指導し、2名の修了生を排出することができた。
研究	0.00	外部資金獲得を目指し、情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービスの共通基盤（ID連携技術など）構築に関する研究を推進する。その過程において、マスコミ発表や研究会発表の実施、さらには、成果論文発表(投稿)に向けて開発成果を蓄積する。（成果目標：査読論文2編以上、口頭発表3件以上、特許出願1件以上）	0.30	指導している博士後期&前期課程学生と論文投稿及び学会発表に勤しんだ。その結果、研究室全体で、ジャーナルへの掲載1本、、学会発表2件、特許出願1件の成果が上がった。また、次年度のプロジェクト活動推進に向けて、科研費・若手(B)、及び、民間助成金に応募するなど外部資金獲得活動にも熱心に取り組んだ。今後も研究プロジェクトを（予算獲得も含めて）積極的に推進し、社会へのアピール活動や成果論文の蓄積など実績を挙げていく。
社会貢献	0.00	沖縄電力主催の青少年科学作品展(H25年1月開催)への出展にむけた企画を立案する。また、申請中の外部資金(総務省)が採択された場合は、ID連携技術を応用した地域観光サービス事業者間連携システムを開発し、地域観光産業活性化に寄与する。	0.15	沖縄電力主催の青少年科学作品展(H25年2月開催)に7年連続で出展する予定である。また、残念ながら獲得を目指していた外部資金(総務省)は落選だったが、民間企業と連携して地域振興型のプロジェクト活動(ID連携特許技術の活用)を企画中であり、次年度はそれを推進したいと考えている。今後も引き続き、学校や地域社会への教育や科学技術の理解・普及のための努力を継続していくつもりである。
管理運営	0.00	学科各種委員会の業務を率先してこなし、円滑な学科運営に貢献する。また、学科情報システム担当教員として、昨年度更新された新学科システムの安定運用及び改善に努める。さらに、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員、IT戦略室員としての職務も、自身の専門性を生かして積極的に取り組む。	0.20	学科教務委員として、主に学部、大学院、共通教育科目の時間割編成を担当し円滑に業務を行った。また、学科システム運営では、最新のブレードサーバーやネットワーク機器を構築し、その安定運用に努めた。全学委員としては、情報システム運営委員、セキュリティ運営委員、IT戦略室員として、規定の作成等に貢献した。
進路指導	0.00	担当研究室の学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策（履歴書チェック、面接対策等）を積極的に行う。	0.05	担当研究室の学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートした。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策（履歴書チェック、面接対策等）を積極的に行った。また、学部生についは修士課程へ進学し、十分なスキルアップの上での大手企業への就職を勧めている。(卒研生2名は、本学大学院及び奈良先端科学技術大学院大学への進学が決まっている)
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮城　隼夫	所　属	工学部情報工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)大学院生を一年次教育の補助者として活用し、リーダー・構成員形式のデザイン教育を行い,グループ企画、報告書作成能力を養成する。(2)活躍している社会人を講師として招き、学生が広い視点から物事を考えられるような教育を行う。(3)入学時点で数学力の弱い学生を選抜し、情報工学で授業についていけるための基礎数学力を養成する。	0.30	(1)大学院生を一年次教育の補助者として活用し、リーダー・構成員形式で、グループ企画、報告書作成能力を養成する教育を行った。(2)社会で活躍している方々を講師として招き、学生が広い視点から物事を考える教育を行った。(3)入学時点で数学力の弱い学生を選抜し、学科で授業についていけるための基礎数学力を養成した。(4)システム理論、ファジィ理論では応用例を多くあげ、理解しやすくした。
研究	0.30	(1)外部資金を獲得し、研究体制を整える。(2)研究の効率化のため、高等専門学校等との共同研究体制を組む。(3)得られた研究成果を国内、国際学会等で発表する。	0.30	(1)外部資金（科研費,寄付金）を獲得し、研究体制を整えた。(2)研究の効率化のため、沖縄高等専門学校との共同研究体制を組み、得られた研究成果を国際学会で発表した。
社会貢献	0.05	(1)学外の審議会、委員会に参加し、専門分野に基づく知識を供与する。(2)NPOに理事として参加し、専門知識に基づく社会貢献を行う。	0.05	(1)ピアレビュー委員会（総合事務局）に参加し、専門分野に基づく知識を供与した。(2)NPOに副理事長として参加し、専門知識に基づく社会貢献を行った。(3)GIS学会沖縄支部長として県内でGISセミナーを開催し沖縄振興に貢献した。
管理運営	0.30	(1)学科長として、学科の総括を行う。（2）学科の予算、将来計画、構成員の評価などを行う。（3）工学部代議員として学部の運営に携わる。	0.30	(1)学科長として、学科の諸活動の総括を行った。（2）学科の予算作成、教務、入試の総括、ミッションの再定義、将来計画、構成員の評価などを行った。（3）工学部代議員として学部の運営に携わった。
進路指導	0.05	(1)活躍する社会人を招き、講話を通して、専門と社会の繋がりを考えさ	0.05	(1)プロジェクト・デザインIにおいて、活躍する社会人を招き、講話を通して、専門と社会の繋がりを考えさせた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高良富夫	所　属	工学部　情報工学科	職　名	学部長　教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	シラバスに示したとおりの学科の学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部担当科目および大学院科目を担当し、効果的な講義を行う。プロジェクトベース学習を推進する。自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進める。全学・学部内FD活動に積極的に参加する。	0.20	「プロジェクトデザインII」でプロジェクトベース学習を推進した。「認知工学」「自然言語工学」「音声情報処理論」「先端情報工学概論」で音声分析・合成・認識に関する自分の研究成果を活用してデモを行い、興味深い講義を進めた。大学院「科学者倫理」にほぼ毎回出席し、学生と議論した。6月に全学のFDに、学部内では毎月「ゆんたく会」FDに積極的に参加した。
研究	0.20	学生と共に研究論文を投稿し採択を目指す。国際学会及び国内学会で発表する。医学部との共同研究を継続する。他大学と連携した研究を継続する。企業と連携した研究を行う。	0.20	研究論文を1編投稿し査読待ちになっている。日本音響学会で2編発表した。国際研究集会に投稿した。医学部との共同研究を継続し、英語論文を準備した。茨城大学、室蘭工業大学と連携した研究を行った。沖縄県立博物館と三線に関する共同研究を行った。
社会貢献	0.15	県内でのIT関連審議会に参加する。福祉関係の学校の非常勤講師を務める。公開授業を提供する。教員10年研修を提供する。海外の協定校と交流を行う。	0.15	県内でのIT関連審議会に参加した。IT関連教育機関の運営協議会委員長・参与を務めた。福祉関係の学校の非常勤講師を務めた。高校生向け・社会人向けの公開授業を提供した。教員10年研修を提供した。海外の協定校に4年次学生を派遣し引率した。
管理運営	0.40	工学部長として、工学部の教育、研究、及び社会貢献が効果的に行われるよう、副学部長と協力して精力的に取り組む。また工学部内の融和・協力のための方策を実施する。	0.40	工学部長として、教育と国際貢献のため、民間援助により東南アジアに学生を派遣する制度を作った。研究振興のため、学部として論文投稿助成を行った。社会貢献のため県工業連合会に積極的に参加した。工学部内の融和・協力のため、「ゆんたく会」を推進し、レクレーションを実施した。
進路指導	0.05	「プロジェクト・デザインII」において、将来の就職を見据えた進路指導を行う。研究室の学生の進学・就職指導を行う。	0.05	「プロジェクト・デザインII」において、将来の就職を見据えた進路指導を行った。研究室の学生の進学・就職指導を行った結果、２名進学、１名就職と全員進路決定した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	遠藤　聡志	所　属	工学部情報工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部専門：線形代数、ニューラルネット，人工知能，キャリア実践(分担) 共通教育：情報科学演習2コマ 大学院情報専攻：複雑系工学論 　シラバスを活用し，計画的に実施する．Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しながら講義を進行する．	0.35	各講義をシラバスにそって計画的に実行した．中期計画プロジェクト経費により，キ社会人基礎力テストの実施，外部講師の招聘，沖縄国際大との連携事業等を試みた．4名の卒業研究指導．2名の修士論文指導，1名の修士論文指導支援をおこなった．
研究	0.30	web miningに関する技術開発，拡張現実に関する基礎技術の開発，評価と応用，エージェントシミュレーションのITS分野への適用を行う．情報処理学会全国大会，人工知能学会，FANシンポジウム等で成果公表する．FAN2012の沖縄開催を行う	0.25	人工知能学会，FIT，FANシンポジウム等で研究成果を公表した．FAN2012ではプログラム委員長として開催支援を行った．博士後期課程修了予定者の論文投稿を支援し，採録された．沖縄高専の玉城／佐藤研究室と2回の研究交流発表会を開催し，地域連携を行った．
社会貢献	0.05	沖縄県高校生等のためのキャリア形成支援プログラム協議会委員 観光とけいざい紙においてITセミナーコラムの執筆	0.05	沖縄県高校生等のためのキャリア形成支援プログラム協議会委員として，プログラムのビジョン策定，事業計画設計に携わった． 観光とけいざい紙においてITセミナーコラムの執筆１２回を行った．
管理運営	0.30	総合情報処理センター長として全学情報基盤整備の管理運営 IT戦略室のCIO補佐として情報基盤整備戦略立案，規定整備の業務 アドミッションオフィス委員 学科入試委員会委員長	0.30	総合情報処理センター長として大学情報基盤整備，ICT教育関連講演会の開催，H27導入予定のキャンパス情報システムへの提言案をまとめた．アドミッションオフィス委員として全国での大学広報を行った．学科入試委員長として，入試業務取りまとめ，九州地区高専との編入入試に関する意見交換等を行った．
進路指導	0.05	研究室の学生（学士5，修士2）の進路指導を行う． 2年次指導教員としてHR制度を実施し，修学相談，将来を意識した修学への動機付けなどを積極的に行う．	0.05	学士4年次のうち2名の進学，2名の就職を支援した．1名は，本配属とならず研究室のセミナー参加を指導した．修士2名の進路指導を行い，県外ICT企業への就職が決まった．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	姜　東植	所　属	工学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学部科目（コンピュータシステム，情報工学実験3）を担当し，デザインの能力を向上させる講義が出来るよう努力する。また，大学院講義（知能システム論，Intelligent Systems）は研究に利活用できるよう実践的な要素を取り入れた授業を行う。	0.25	学部教育に関してはシラバスに従って講義が実施でき，目標を達成した．また，大学院教育では，いくつかの実践的な課題をだし，その結果について受講生全員が議論させることで研究に利活用できるようした．
研究	0.30	大学院前期課程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部研究助成金の獲得を目指しながら、世の中に貢献できる研究開発に努める。	0.30	国際学会１件（ITC-CSCC2012），国内学会2件(FAN 2012，SIP2012)の研究発表を行った．また，9月に共同研究を2年間契約しており，外部研究助成金を獲得することができた．
社会貢献	0.10	観光産業の関係者と交流を行いながら，共同研究を実施し、社会貢献を図る。また，県内高校への出前講座を実施する。	0.10	観光産業の関係者と交流を行い，ITの利活用について助言した．しかし，高校への出前講座の実施はできなかったので，来年も実施申請を行なう予定である．
管理運営	0.30	工学部の将来計画委員会や学科の予算委員会などの活動に積極的に参加する。	0.30	工学部の将来計画委員会や学科の予算委員会に参加し，積極的に活動した．
進路指導	0.05	研究室に配属された学生の進路に対し，相談や助言する。	0.05	就職における心構えや面接に対する助言を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	山田孝治	所　属	工学部情報工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	″本年度は，配布できる資料をより多くつくりたい． 学部：ソフト演習1，ソフト基礎1，ソフト基礎演習1，情報工学実験3，4，情報科学演習23組，知能ロボット 大学院：知能ロボット論，Intelligent Robotics 博士後期：創発知能ロボット工学特論″	0.25	授業にて，Webベースの情報提供（moodle, wiki）を行い，十分活用されたと思う．また，ロボットの時間ではビデオの活用も行った．実験では，グループがETロボコン沖縄大会で総合2位を獲得し本大会まで出場できた．
研究	0.30	Phone, iPod などセンサーモバイルツールの活用を議論する．ロボットとしても新型を検討したい．碁の戦略に関するAIアプローチを検証する．今年は，論文として提出したい．折り紙など，新規の研究へステップを進める．博士学生の論文発表を進める．院生の学会発表を進める,複数の国際学会への発表を予定している	0.30	県内外および国際学会に6件の発表を行った．担当している博士課程の大島君は論文掲載を果たし，加えて3つ以上の奨学金を獲得できた．博士修得も行えそうだ．
社会貢献	0.15	FAN2012シンポジウムを沖縄で開催する． 「ロボットを体験しよう！」 ロボットを創造し動作させることの楽しさを体験させる活動を行う．昨年度までの子どもゆめ基金より助成金は，今年は申請していないが，昨年に引き続き，研究室学生とロボット教室の活動を続ける．	0.15	FAN2012シンポジウムを沖縄で開催し，現地実行委員として務めた．情報工学科学生のバイト雇用を通じて大会運営に係わらせることが出来た．また，大会は好評で，本学会の論文特集号が富士技術出版から出版されることも決まった． 「ロボットを体験しよう！」というロボット工作教室を那覇中央公民館で開催し好評を得た．
管理運営	0.15	予算委員，広報．それぞれ他の教員を患わせることなく，状況を良くできるように対応する．また，昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として，今年度も高専との学生研究発表会を成功させる．	0.15	予算委員，広報．委員を担当した．昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として，今年度も高専との学生研究発表会を成功させた．
進路指導	0.15	卒研配属生に大学院進学を勧める．　生徒のコミュニケーション能力の向上を考え対話時間を増やす．	0.15	残念ながら卒研担当の3人うち2人が卒研発表から脱落してしまった．最近の学生の想像以上の心の弱さへの対応が今後の課題となる．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	當間愛晃	所　属	工学部情報工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	(1)学部担当科目（情報工学実験I/II/III/IV）を担当し、URGCCの基準を満たす実験を行う。 (2)卒業研究およびセミナーを担当し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。 (3)次年度に向けた実験III/IVの新テーマ検討（エンジニアリングデザイン教育）。	0.38	(1)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導を行った。特に実験2では口頭試問を通したレポート指導、実験3,4についてはコード・レビューの機会を増やすことで全体の質向上に努めた。 (2)例年通り学部生向けセミナー実施に加え、複雑系工学研究室（遠藤・山田・當間・赤嶺）合同による院生向けセミナーを実施し、研究活性化を図った。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。 (3)新テーマ検討を進めているがまだ具体的な教材＆シラバス作成には達していない。引き続き継続を予定しており、できるだけ4月開始に盛り込めるよう検討中である。
研究	0.40	(1)学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2)大学院修士課程の学生と共に学会発表を通した研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3)新しい研究シーズ検討を行い、研究の幅を広げる。	0.40	(1)研究発表および聴講参加した情報処理学会全国大会、日本認知言語学会、日本認知科学会大会、沖縄高専との交流研究会について参加記録を整理し、ブログ記事として公開した。(例: http://ie.u-ryukyu.ac.jp/tnal/archives/2899) (2)例年通り一人一回以上の学外発表を行っており、3月の発表を含めて合計10件の学会発表となる予定である。 (3)日本認知言語学会、日本認知科学会大会への初参加を通して新たな知見を得つつ、シーズ検討を進めた。
社会貢献	0.08	(1)教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2)FAN2012の実行運営。	0.10	(1)学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2)FAN2012の実行運営をサポートした。
管理運営	0.10	(1)学科システムの stable な運用管理に努める（計算機実行委・ネットワーク委）。 (2)各種委員会活動に積極的に参加する。	0.10	(1)サポート的な立場でのトラブル／ヘルプ対応を行った。 (2)積極的に参加し、管理運営業務を行った。
進路指導	0.02	(1)就職活動の進捗確認を行い、適宜指導する。 (2)進路指導の観点を加味したブログ記事作成（学生への周知）。	0.02	(1)就職活動中の学生らの進捗確認を行い、エントリーシートの書き方等適宜指導を行った。 (2)どのような心構えで修学するかについての記事作成だけでなく、工学部合同企業説明会の告知等、幅広い観点で学生へ周知した。(例: http://ie.u-ryukyu.ac.jp/tnal/archives/2796)
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	赤嶺　有平	所　属	工学部情報工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	実験1の資料及び進め方について，学生自身に考える時間を多く与えるように改良する．また，課題の分量を調整する．実験3においては，学生の学習時間がオーバーしないように成果物の目標設定について考慮する．	0.30	実験1においては，講義中に小テスト，解答，自己採点を複数回設けることでなるべく学生自身が考える時間が増えるように考慮した．実験3については，学習時間が過大にならず，かつプロジェクトの質が下がらないようにサンプルコードを多く提供するなどの工夫を行った．
研究	0.50	科研費採択課題である交通シミュレータ及びITSに関する研究をすすめる．また，3Dコンテンツ作成補助に関する研究を行う．２編以上の査読論文採択を目指す．	0.40	森林火災シミュレーションに関する論文を準備済み，２月中に投稿予定．交通シミュレーションに関する研究成果について2件学会発表を行った．ITSの研究成果を今年度中に投稿予定．3Dコンテンツ作成補助に関する研究成果を3件学会発表，一編をSIGGRAPHに投稿したが不採録．AR(拡張現実感)に関して3件学会発表．
社会貢献	0.10	昨年度オープンソースとして公開した，リアルタイム3Dコンテンツ開発用ライブラリを改良する．FANシンポジウムの現地実行委員会を担当する．	0.10	リアルタイム3Dコンテンツ開発用ライブラリを改良し，実験3，4において活用した．ライブラリは公開済みである．また，ITまつりにおいてインタラクティブコンテンツの展示を行った．FANシンポジウムの現地実行委員を担当した．日本道路交通情報センターからの依頼で観光客の迂回を促すシステムの評価を行った．
管理運営	0.10	各種委員会において着実に業務を遂行する．	0.10	各種委員会の業務を遂行した．
進路指導	0.10	研究室及び他の学生に対して適切な進路指導を行う．	0.10	本研究室においては，学部生は2名進学（本学），修士1名が進学（本学），1名は就職（NTTドコモ）
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。